



森田 康夫

「熊本の白糸台地は、江戸時代、水に乏しい不毛の大地でした。この困難の中に、布田保之助は、希望を見いだしました。水路橋を架け、山から水を引く。高さ20メートルもの石橋は当時存在しませんでした。30億円を超える費用を捻出しなければならぬ。高い水圧、大雨、想定外の事態に何度も失敗しました」

「それでも、保之助は、決して諦めませんでした。30年以上にわたる挑戦の末に『通潤橋』を完成させました。熊本地震で一部損壊したものの、今でも現役。150年にわたり白糸台地を潤し、豊かな実りをもたらしてきました。まさに『未来への架け橋』となりました」

熊本地震

これは、2016年9月26日

召集の臨時国会の冒頭にあった安倍晋三首相の所信表明演説の一節で、演説は「布田保之助と通潤橋」の物語で締めくくられています。本国会では、大規模な補正予算が成立。熊本地震の災害復旧・復興関係予算も大幅に認められました。

インフラ学習に「通潤橋物語」

「布田保之助と通潤橋」の物語は、戦前には修身、戦後は国語・社会・道徳の教科書に掲載され、児童や生徒に生き方の規範を示してきました。現在も東京書籍の小学4年の社会科教科書は18%を割いて詳しく紹介。熊本地震からの復旧も進み、観光資源としても重要な役割を果たしている、とあります。

現在整備中の九州中央自動車道が延伸されることで、さらに多くの人々がこの物語のふるさと・山都町に足を運ぶことを期待しています。インフラ整備は、現世代だけでなく将来世代にとつても重要な投資で、郷土を豊かにする幸福の基盤なのです。

